

## 2024 年度「I Cで学んで」

3年 ICB 組

ICを通して学んだ事は、私がICに入学した時に想像していたよりも遥かに多かったです。第一は英語でのコミュニケーション能力、語学力です。入学時はなかなか恥ずかしさも有り積極的に自分から英語を発することが出来ないことも多くありました。しかし3年間同じクラスメイトとネイティブの先生という環境により、英語を発することへの抵抗や緊張感が無くなり自然体で英会話する流れを自分の習慣にすることが出来ました。またニュージーランドへの短期研修では自分の英語スキルを把握してスキルアップさせることが出来ました。その過程で沢山の人の出会いがあり、悩むこともたくさんありました。まずは文化や感覚の違いです。やはり日本人とは全く違う考え方や価値観をもっている人もいてなかなか分かり合えない、理解し得ないこともありました。私の場合は同居人の韓国人留学生との価値観の違いで何度も英語で話し合いました。今となってはとても良い経験で勉強になりましたが、当時はとても悩んだ記憶があります。ですが学校では日本の学校とは全く違う環境でルールの基準も違い、私はとても過ごしやすく、居心地がよいと感じました。約5週間ニュージーランドへ留学してみていい影響を受けて自分自身を変えるきっかけになったなとしみじみ思います。ICコースは3年間クラス替えが無く、同じ仲間同じ先生と一緒に3年間過ごしますが、ニュージーランド留学では少人数に振り分けられ、その中でもひとりひとりが現地のルールに従い馴れていく大きな機会でした。この経験は私にとってとても貴重で、高校生になって、入学以降初めましての人と一からコミュニケーションを取って親睦を深めていく機会があまりなく慣れていないうえに、他言語で積極的に友達を作ったりホストファミリーとの親睦を深めたりする事は本当に大変で難しく、改めて人と人の繋がりについて考える時間だったなと思います。このような学びは良くも悪くも日本を飛び出して実際に他国で生活をしてみる事でしか得られない貴重な体験、学びだと思ひ、ICコースでしか体験できない事だなと実感したので心に深く残っています。

次にMUN、模擬国連では私はプレジデントアシスタント（議長補佐）を務めました。私の高校3年間の中で一番大きな思い出だなと感じています。正直、高校3年間のうちに代表になったり目立って表彰されるというのはあまりなく、平々凡々と日々を送っていましたが、模擬国連大会の機会に会議をまとめる代表者の枠に入るプレジデントアシスタントを務めて初めて、責任を感じる楽しさや自発的に英語で初対面の人ともコミュニケーションを取り会議を良くしていく事にやりがいを感じる事が出来ました。自分ひとりではなかなか上手く行かないことでも、クラスメイトと話し合い団結してひとつの事を成功させる難しさや達成感を忘れることは無いと感じています。代表者の中でも仕事が多く、会議をするにおいてとても背負うものが大きい役職なので上手く進行できなかった時にはとても責任を感じ落ち込むことも悩むことも多かったからか、本番ではクラスメイトとここまでやってきたんだから大丈夫、という強い気持ちで自信を持って進行することが出来て本当に気持ちが良かったのを鮮明に覚えています。この経験から、人生においてなにかリスクがあることでも成功した時を考えて行動する事の大切さ、ゴールをぶらさない事の難しさについて学びました。この経験もICコースでしか体験できないことであり、私にとって本当に大きな学びとなったので感謝しています。

大きく留学とMUNについて挙げましたが、日常生活からも学ぶことが沢山あり、なにより自分の英語力を毎日発揮出来る環境に感謝しているし、とても充実した3年間だったと、ICコース生活のどこを切り取っても感じる事が出来ます。本当にICコースを選んでよかったと思っています。